

■ 社名/業種

BHQ株式会社 / 先端技術

■ 対象地域

全国

■ 上記政策分野における貴社の提供サービス・ノウハウ

- ・国際標準に準拠した**脳の健康管理指標BHQ**を提供（内閣府ImPACTが開発）
- ・具体的には、自治体の中核病院や地元クリニックの脳ドック検診者に脳の健康状態をわかりやすい数値で伝え、脳の健康の維持向上につながる情報を提供することが可能
- ・これによって、**BHQを共通言語としたWith/Afterコロナにおける新たな人との接点**を提供できる

■ 上記サービス・ノウハウを活用した実績（特に地方公共団体との連携実績）

埼玉県に研究開発のご支援をいただき、埼玉県下の病院で試験運用を行った。  
 （この他、全国津々浦々の医療機関に加えて、デイケアや介護施設を運用する医療法人へのヒアリング経験から、BHQの利用方法のサポート及びアドバイスが可能）

■ 連携することが想定される分野（複数分野を選択している場合は、分野間の連携方法）

<⑭ハートフル>

MRI保有の医療機関を中心とした、脳の健康を起点とするSNSコミュニケーションや、脳に良いアクティビティを通じた人とのつながり、あるいは、脳の健康管理をきっかけとするひとり親家庭、単身高齢者世帯へのオンライン訪問活動などを通じて、**自治体と地域全体が連携した新たなコミュニティの創出**が可能になる。

■ 上記サービス・ノウハウにより実現できること（想定される効果、解決することが期待される地域課題等）

認知症、脳卒中、鬱病など、現代の日本ではこれらの脳精神疾患の急増が重要な社会問題ですが、新型コロナウイルスによる外出自粛や社会活動の低下、将来に対する不安などにより、私たちの脳と心は今まで以上に疲弊しています。すでに、脳の健康状態を示すBHQは、年齢・肥満・食事・疲労・ストレスなど様々な因子との関係性が明らかになっています。例えば、魚をよく食べる人は認知機能が高いことが分かっていますので、自治体の料理教室で脳の健康に良い食事を取り上げることで、食事と人とのつながりにより疲弊した脳と心の改善につながると考えられます。さらには、料理教室で作った料理をひとり親家庭や単身高齢者へ提供することで、コミュニティの輪が広がり、孤立化を防ぐことも可能であると考えています。

■ 地域未来構想20の実現を目指す自治体へのメッセージやPR等

人とのかわりが減るWith/Afterコロナにおいて、脳と心が豊かになるコミュニティ、つながりの輪を実現してみませんか？

- 例) BHQの計測に訪れた検診者同士、検診者と病院スタッフや医師のコミュニケーションの場を通じて、**脳と心が豊かになる**。
- 例) 在宅勤務や外出自粛中でも、自宅でする脳に良いデジタル体操やオンライン脳健診を介して、**住民同士がSNSでつながる**。
- 例) BHQを共通言語としたSNSのつながりで、孤立する**ひとり親**や、近所の**単身高齢者**の状況を**地域全体**で把握し、**支援**する。

地域未来構想20におけるビジネスの座組

